

◎高校生ワークショップの報告

1 実施校

(1) 県立横須賀高校

日 程：令和2年12月10日

参加者：1年生21人

(2) 市立総合高校

日 程：令和2年12月16日

参加者：1～3年生17人

2 実施概要

横須賀の未来について高校生の意見を聴取するため「2030年 横須賀の未来の一日」をテーマに高校生ワークショップを行いました。

横須賀の現状を踏まえた上で、society5.0の社会などの未来のことも見据え、2030年の色々な立場の人になりきって、横須賀での未来日記を書きました。

どんな未来になって欲しいか、現在とどのように変わっているのかを考え、様々な新しい技術を活用して暮らしを最適化したり、横須賀の問題を解決した姿を描きました。

一方で、「機械ばかりで人とのつながりがなくなってしまうと寂しい」や「自分で考えたり、動いたりしないとだめだと思う」という声もありました。

3 生徒が書いた未来日記の抜粋

●オンラインやVR等の技術の進歩、普及により場所等の制約にとらわれず、授業を受けたり、コミュニケーションがとれるようになる未来が書かれました。

- ・授業でVRを使って、歴史を体感して学ぶことができた。
- ・怪我をして入院しているクラスメイトもオンラインで授業を受けられる。
- ・リアルタイムでの翻訳技術が発達し、オンラインで全世界の人々と母国語で会話ができるようになっている。

●技術の発展でサービスが向上し、現在、時間がとられていること（作業、移動、検索など）がなくなり、その分、家族や地域、趣味や遊びに有意義に時間が使えるようになる未来が書かれました。

- ・テクノロジーの発達により、子育てだけに時間をとられず、仕事も趣味も楽しみながら子育てができるようになる。結果として産む子どもの数が増えた。
- ・テレワークの仕事が終わった後は、高齢者向けパソコン教室の講師として、近所の自治会館で授業を行った。
- ・観光の際の移動、情報収集、支払いがスムーズになって、無駄な時間を減らして、横須賀の魅力を目一杯感じられる最高の旅行になる。

- 高齢社会を迎えるにあたり、A I やロボットを使って食事や運動を最適に行い、いつまでも健康でいられる未来が書かれました。
 - ・健康状態に合わせて、食事や運動の内容をすべてA I が決めてくれる。
 - ・筋力アシストロボット等の活用により、高齢者の外出が活発になった。

- オンラインやA I によってでできることが増えるにつれ、家族や地域などの人間関係、また仕事の意味や価値、役割が再定義されていくことを想定し、人々の暮らしや考え方が変化する未来が書かれました。
 - ・オンライン化により、対面でのコミュニケーションが希薄になったことにより、逆にそれが価値を持ち、それを求める世の中になった。結果として、地域の活動、イベント、お祭りが活発になった。
 - ・教育はリモートが中心となり、教員の仕事は生徒からの相談や、学習到達度に応じた指導などが主になっている。
 - ・A I の進化により、友達がロボットに職を奪われたので、真剣に仕事に励むようになった。
 - ・テレワークの進展により、家族で過ごす時間が増えて、夫婦げんかが増えた。